



Twitterにおける文末表現〈笑〉と〈W〉の違い(二〇一五年度卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学国語国文学会・札幌 公開日: 2016-11-22 キーワード: 作成者: 菅原, 健太 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00007525

Twitterにおける文末表現〈笑〉と〈w〉の違い

日本語教育学研究室 二四八七 菅原 健太

本研究では、文末に表出する〈笑〉と〈w〉の違いについて Twitterの用例をもとに、意味、用法の違いを明らかにすることを目的とした。

調査には、「TOPSY」を用い、用例収集した。分析には、形態素解析を行い、〈笑〉と〈w〉の直前につく語を調査した。

形態の違いとして、〈w〉には著しく大量の〈w〉を重ねる用法、〈笑〉には「苦笑」や「爆笑」のように語を添える用法、()でくくる用法があることを明らかにした。これは打ちやすさや、〈笑〉と〈w〉の表現が生まれた経緯が要因と考えられる。また、補助記号との共起のしやすさから〈笑〉と〈w〉の記号文字性の違いを明らかにした。

表現効果の違いとして、〈w〉には不快感を表す表現効果と煽りを表す表現効果があることを明らかにした。不快感を表す要因としては人を表す代名詞との共起のしやすさ、煽りを表す要因としては反語を表す係助詞との共起のしやすさが表現効果の違いを生むと考察した。また、感動詞との共起のしやすさから考察した結果、〈笑〉は使用者以外の笑い、〈w〉は使用者自身の笑いを表すことを明らかにした。

今後の課題としては、通時的な用例収集から分析を行うこと、使用者の使用意識から〈笑〉と〈w〉の違いについて明らかにしていくことが挙げられる。